

千葉忠畜産 株式会社



1 現在の経営状況等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

生産から食卓まで安全で安心なお肉の提供、環境にこだわり愛情をもって飼育。

(2) 栽培技術の特長

年間平均気温11.7℃で年間降水量は少なく、また降雪期間も比較的短く東北地方にあって住みよい気象条件の中にサンバンエ牧場(牛舎)がある。空気の流れを考えて建築した畜舎、全長90mと大きく快適な環境になっている。厳選飼料。一頭ごとの個体管理を重視。繁殖農家との情報交換を密にして、素牛の育ち方も重要視している。

(3) 販売の特長

独自ブランド「たんち牛」(会長の幼少からの愛称)を販売。焼肉店「味処しんくら」で堪能もできる。

※「たんち牛」とは、優れた血統を持つ黒毛和牛を同社の牧場で約30ヶ月肥育したA3~A5等級の品質のものとして定義。純白でほのかに甘みのある脂身と、深くしっかりした味わいの赤身がバランスよく口の中に広がるのが特徴。

メーカーとの相対取引を柱とし、首都圏の市場へも出荷する等、安定した価格での販売網を形成。ドライエージングビーフ(乾燥熟成した牛肉)、保存ビーフ(レトルト・真空包装)の製造も手掛け、自社の焼肉店・直売所、首都圏のホテル等へ販売。

(4) 経営組織の特長

たんち牛をもっと地元の人にも知っていただくこと、直営精肉店「肉の千葉忠」、通販、焼肉店「味処しんくら」で手頃な値段で提供。生産された堆肥を、周囲の耕種農家に、地力回復、土壌改良剤として販売、稲わら交換して耕畜連携を実践している。転作田を活用しデントコーンを作付けし、堆肥の適正還元と自給率の向上に努めている。

(5) 労務管理の特長

月に6回以上は休暇を取るよう指示、基本的な指示のみ与え従業員が自ら考え、作業を組み立て、実行する気風を創出(密に情報を交換し合い、個体管理が行き届くようになっている)、タイムカードの導入による労働の管理。

(6) 経営管理の特長

会計処理はパソコンで管理し、税理士の指導を受けながら税務申告を行っている。資金繰りは地元銀行、公庫の支援のもと、借入、返済計画等を樹立し、経営の安定に努めている。更にはこれら融資機関のアグリビジネスアドバイザーによる定期的な経営診断やアドバイスの無理、無駄の無い経営が実現している。

2 法人設立までの変遷

(1) 法人設立の動機, きっかけ

昭和43年に肥育経営を開始し、徐々に増頭。昭和55年に有限会社に法人化し、その後、株式会社に變更。

経営のプロフィール

経営概要

肥育牛1,200頭(導入:700頭, 出荷:700頭)
デントコーン4~5ha
(転作田利用 全てRM140 耕起, 作付け)

主な施設・機械の保有

- ・堆肥舎(2,600㎡) 3棟
- ・牛舎(4,752㎡)2棟, (2,000㎡)1棟, (2,500㎡)3棟(計9,252㎡)
- ・飼料庫(2,300㎡)1棟
- ・ホイールローダー6台 ・トラクター2台
- ・フォークリフト2台 ・運搬車2台
- ・堆肥運搬車2台 ・軽トラック1台

構成員等

役員:4名, 従業員:8名(パート), 肥育:8名,
精肉店:2名(事務員:1名, 役員:1名)

法人設立年月日

平成20年4月28日(有限会社設立昭和55年9月1日)

認定農業者認定年月日

平成25年3月19日

資本金

3,500万円

販売額

肥育牛売上8.1億円(肥育牛700頭)(平成27年度)

役員名

代表取締役社長:千葉 忠治
取締役:千葉 忠志
監査役:佐藤 純子

補助事業、制度資金活用実績

平成11年:農業経営基盤強化資金(畜舎)
平成15年:畜産環境整備リース(堆肥舎)

過去の表彰

岩手県家畜商主催
第19回 東北・北海道連合肉用牛枝肉共進会 優秀賞

(2) 法人化に至る経過等

経営と家計の分離、役割分担を明確化し、給料制を導入して企業的な経営を図るため法人化。規模拡大を進める中、家族労働では労働力を賄えないため雇用をせざるを得なくなった。優秀なスタッフ確保と長く安心して勤めてもらうため社会保障、年金、退職金の積み立て等福利厚生で充実を図る必要性があった。世代交代を円滑に行うことや社会的信用を得ることも目的の1つとなっている。

(3) 法人化後の評価(良かった点等)

全てハローワークを通じた募集、雇用を行っている。労働環境が整っているため、特に若手の雇用が順調に確保できている。

3 今後、将来に向けてのビジョン等(現時点)

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

規模を拡大(常時飼養頭数1,200頭→2,000頭)。素畜費が高いことから繁殖部門をとり入れ一貫経営を目指す。近隣の繁殖農家数名と新組織を立ち上げ繁殖部門を興す。100~200頭を目標(管理頭数50頭/人程度)。これにより繁殖農家のノウハウが活かされ、効率良く子牛生産が可能となる。肉加工品を充実させ商品化と販売強化。地域からの雇用を増加させ、技術者を養成する。

(2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

近隣繁殖農家との情報交換、検討を進めている。肉加工品の試作を行っている。

(調査:登米農業改良普及センター)

略図



千葉忠畜産株式会社

〒987-0321 登米市米山町西野字三番江35-10
TEL 0220-55-5029
FAX 0220-55-5129
URL <http://www.tanchi.jp/company/>
E-mail chibachu29@mind.ocn.ne.jp

視察受入条件

視察受入は実施しておりません。